



EMERGENCY WATCH

No. 108 Mar 2020



神戸こども初期急病センター

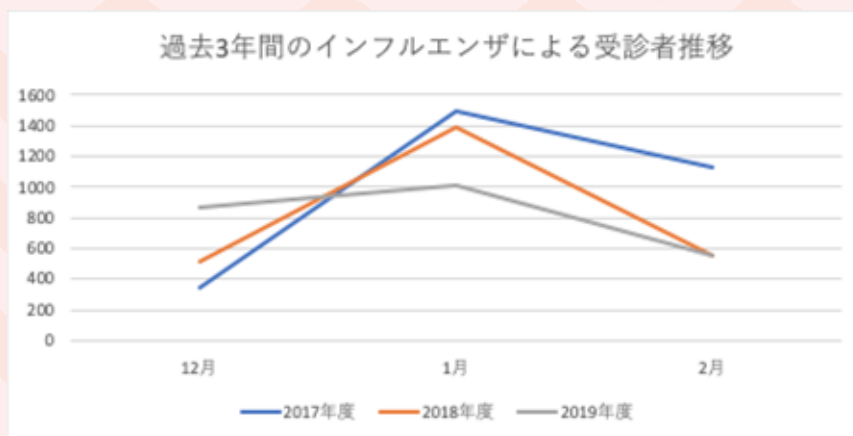
2020年2月
受診者数
2112人

疾患頻度

1. 急性上気道炎	664人
2. インフルエンザ	552人
3. 感染症腸炎	237人
4. 感冒	160人
5. 咽頭炎	123人



インフルエンザ感染症は2月から減少傾向に転じました。2月のコロナウィルス感染騒ぎに伴い、うがい手洗いの予防策により、インフルエンザ患者数も減少したというわさが流れておりますが、下のグラフのように、2月のインフルエンザ患者数は昨年とほぼ同じでした。





EMERGENCY WATCH



特別連載 こどもの事故 part 9



新型コロナウイルス感染症のパンデミックで色々な情報が錯綜している日々です。
今回は以前の新型インフルエンザパンデミックの状況を思い出しながら…
今現在、分かっている範囲で小児における新型コロナウイルス感染症について説明します。
(注:情報は日々変化しますので最新の情報は世界保健機関(WHO)や厚生労働省ホームページ等でお確かめ下さい)

●日本でのパンデミック(H1N1)2009の発生と流行

2009年5月9日に成田空港検疫で新型インフルエンザの患者が検知され、その後5月16日神戸市、ついで5月17日大阪府内で確定例の確認があり、兵庫県内、大阪府内の高校を中心にした集団感染が明らかとなった。地域での学校閉鎖や濃厚接触者に自宅待機を要請するなどの対策が行われ、そのために兵庫県内や大阪府内での一般社会への広がりはかなり抑えられ、重症者・死亡者の発生はなく、ウイルスもいったんは消え去ったとみなされた。

しかし6月中旬頃から再び日本各地での発生が続いた。そして8月頃に例年であれば12月頃にみられるようなインフルエンザ様疾患の発生状況となり、12月に入り減少傾向となった。

●新型コロナウイルス感染症【COVID-19(coronavirus disease 2019)】

原因ウイルス名:severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2)

2020年3月8日現在

小児における感染の主な症状は発熱・咳である。鼻汁や鼻閉などの上気道症状は比較的少なく腹痛や下痢などの消化器症状も特徴的ではない。

軽症あるいは自然軽快する症例がほとんどである。

ウイルスの排泄は症状の有無にかかわらず鼻咽腔の他に便中からも長期に排泄される。

感染様式:飛沫感染*と接触感染**の2つ

* 飛沫感染 感染者の飛沫(くしゃみ、咳、つば など)と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や鼻から吸い込んで感染します。

** 接触感染 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、自らの手で周りの物に触れると感染者のウイルスが付きます。未感染者がその部分に接触すると感染者のウイルスが未感染者の手に付着し、感染者に直接接触しなくても感染します。

予防のためには、一般的な感染症対策を行いましょう。
(手洗いや手指消毒、人混みの多いところを避ける等々)

もっと知りたいという方は、日本小児科学会のホームページを参考にして下さい。